

みずのわ

学校だより

【第3号】

令和8年5月29日(金)
石巻市立石巻小学校

—主体性が拓く未来、命を守る学び、そして愛する故郷—

天気が心配されましたが、運動会を無事に終わることができました。早朝からたくさんの御協力をいただきありがとうございました。当日は御覧いただいたとおり、子供たちの「はつらつ」とした姿が校庭いっぱいに広がりました。保護者の皆様、地域の皆様の温かな御声援、本当にありがとうございました。

今回の運動会を通して子供たちは勝敗に一喜一憂する姿だけではなく、「練習の成果を発揮できた」という思いを抱いていたように感じます。その達成感はその活動への意欲へとつながっていくことを期待したいと思います。

練習中からとても感心したことは、いつも見られた子供たちのすばらしい「聞く姿勢」と「行動力」です。教員の指示が少なくとも、子供たちは何をすべきかをすぐに理解し、自ら動いていました。これは決して一朝一夕にできることではありません。日々の授業において、「しっかり話を聞く」「何をどのようにすればいいか考える」「自分なりに考えて行動しようとする」という教師と子供たちの積み重ねてきた成果です。こうした主体性は、本校が大切にしてきた「伝統の力」でもあります。歴代の先輩方が見せてくれた良いお手本を、今の子供たちがしっかりと受け継いでいます。

また、競技や演技中の歓声は「仲間の数だけ」大きくなります。一人ではくじけそうな場面でも、仲間の声援があれば限界を超えられる。そして、「自分のいいところを見てほしい」という純粋な願いは、どの子供の胸にも宿っています。その願いが認められたとき、子供たちは自信を深めていくのだと思います。



また、競技や演技中の歓声は「仲間の数だけ」大きくなります。一人ではくじけそうな場面でも、仲間の声援があれば限界を超えられる。そして、「自分のいいところを見てほしい」という純粋な願いは、どの子供の胸にも宿っています。その願いが認められたとき、子供たちは自信を深めていくのだと思います。

さて、6月は本校において、年間でも特に「命を守る訓練(学習)」を重点的に行う月として位置付けています。6月12日は「県民防災の日」です。昭和53年に発生した宮城県沖地震から、今年で48年が経過します。私たちは東日本大震災の記憶とともに、その教訓を風化させることなく語り継いでいく責任があります。今月、本校では以下のような多角的な避難訓練を予定しています。

「地震発生に伴う避難訓練」：あらゆる場所、場面での初動対応を確認します。

「放射能事故に伴う訓練」：複合的な災害を想定した屋内退避等の動きを学びます。

「津波想定での避難訓練」：地域特性に合わせ、高台へ迅速に移動する訓練をします。

私たちが常に子供たちに伝えているのは、「訓練のための訓練」であってはならないということです。いざという時に自分の命を自分で守る行動ができるよう進めていきます。

来る6月4日は、本校の「開校記念日」です。前々日の朝会では、子供たちに「校歌の歌詞の意味」について話をする予定です。校歌の歌詞にこの地で育つ子供たちへの願いが込められています。学校は、決して学校の中だけで完結するものではありません。長きにわたり、地域の方々に支えられ、守られ、育まれてきた歴史の積み重ねが、今の本校の姿です。子供たちに、「ふるさとを知り、ふるさとを語れる大人」に育ててほしいと願っています。

開校記念日という節目を機に、御家庭でもぜひ、学校の思い出や地域の歴史について話題にしていれば幸いです。

6月は季節の変わり目でもあります。健康管理に留意しつつ、一人一人の可能性を最大限に引き出せるよう、教職員一同、一丸となって取り組んでまいります。今後とも、変わらぬ御理解と御協力をお願い申し上げます。